

LESSON NOTES

Extra Fun #31

O-Bon Kaidan: The Man in the Other Room

CONTENTS

2	Kanji
8	Kana
15	Romanization
22	English
28	Vocabulary
30	Sample Sentences
30	Cultural Insight

31

KANJI

1. 俺は仕事の都合で部屋を引っ越す事になった。
2. その部屋は会社が用意したもので、引っ越し等も全て業者にまかせ引っ越しが完了して初めてその部屋に入った。
3. まさき「うわっ、なんだここ?! 線香の臭いが臭いし、寒気がするし。。。
4. ここはかなりやばいかも。まあしょうがないか。」
5. まさき「えっとー、寝る部屋はこっちで、仕事はあっちの部屋にすればいいか。
6. ささ、早く図面を書かなきゃ担当者の人に怒られちまう。」
7. 荷物の整理をする間もなく、俺は追われている図面書きを始めた。
8. それから3時間が経過した。
9. まさき「腹減ったなあ。もう11時半かあ。飯食って、寝なきゃな。」
10. そう思い台所に向かおうとした瞬間俺の体は凍り付いた。
11. ガラス戸の向こうに誰がいる、曇りガラスのために誰なのかは分からない、
12. まさき「あれって。。。人か??
13. 放っておくか、開けるべきか。でも腹減ってるし。。。しょうがない、開けよう。」
14. やめとけばよかった。目の前にいたのは、身長180cmほどの男。
15. 8月なのに黒いコートを着て、眼球の飛び出した目で俺を見ている・・・

CONT'D OVER

16. あまりに目が怖いので俺は視線を下にそらした。
17. すると首からはおびただしい血、
18. まさき「やばい」
19. お化け「ここは俺の部屋なんだけど、あんた誰。」
20. まさき「どうすりゃいいんだよ。助けを呼ぼうにもまだ電話は引いてないし」
21. まさき「逃げるしかない、でもガラス戸を開ければ男が立ってるし・・・」
22. だからといってこの部屋ではさすがに寝れないし、やっぱ出ていくしかない」
23. 男の横をすり抜け玄関の扉を開きながら思わず
24. 「失礼しました。」
25. 我ながら情けなかった。。。
26. 一人ではとてもあの部屋に戻ることはできない。そう思い俺は中学からの親友の二人に連絡をとり相談に乗ってもらおう事にした。
27. まさき「コウジ！こっちこっち！」
28. こうじ「おお、まさき、ひさしぶりだなあ。」
29. しばらくしてアキノリがきた。
30. アキノリ「なんだよ、こんなところに呼び出しといて。一体何があったんだ？」
31. まさき「実はさあ。。。」

CONT'D OVER

32. 俺は二人に昨日起こった事を一部始終話した。
33. アキノリ「はあ???アホかお前。そんなことあるはずねえだろ。見間違いだよ。」
34. コウジ「まあでも、まさきがそこまで怖がるのを見るのは初めてだな。。
35. わかった。今日一緒に行って調べてみるか。」
36. まさき「そうか!ありがとう!」
37. あきのり「今日は俺、彼女と会わなきゃいけないから、明日行ってやるよ。」
38. コウジ「おう、わかった。」
39. まさきとコウジはアキノリと別れ、まさきのアパートに向かった。
40. まさき「さて着いた。ここだよ。」
41. コウジ「な、何なんだよここ。こんなの初めてだよ。」
42. まさき「いいか?開けるぞ。。。」
43. コウジ「うん、わかった。」
44. コウジ「線香の匂いがすげえな。。。」
45. コウジ「お前の言うとおり、普通じゃないね。。ここ」
46. まさき「う、うん。。」
47. お札をガラス戸にはり、清めの塩を台所の4角に盛ることにした。

CONT'D OVER

48. コウジ「はあ。。。効けば良いけどな。」
49. そして夜9時
50. まさき「来たっ！！」
51. コウジ「あれ、止まったぞ？」
52. コウジ「なあやべえよ。しゃれになんねえよ」
53. まさき「うわっ！」
54. コウジ「危ない！」
55. 割れた窓の向こうには、昨日俺が見た奴の目が二人を睨んでいた。
56. コウジ「逃げるしかねえぞ。。。」
57. まさき「でもどこから?!」
58. 窓から逃げるぞ。部屋は二階にあるので飛び出しても大怪我はしない。
59. 二人は飛び出した後、大通りでタクシーに乗りコウジのアパートに向かった。
60. コウジ「あの部屋どうすんだよ!？」
61. まさき「無理でしょ。あそこには住めないよ。」
62. 次の日、コウジのアパートにアキノリが来た。
63. アキノリ「あれ、二人ともここにいるって事は逃げたの??情けないねえ!!」

CONT'D OVER

64. コウジ「うるせー！！見てねーやつにはわかんねーんだよ！」
65. まさき「まあまあ。。。。とりあえずあそこの部屋には戻れない。。。」
66. アキノリ「戻らないとしたら新しい部屋を借りなきゃいけないんだろ、そしたら自腹で借りる事になるんじゃないの？」
67. 何で起こるはずのない現象にビビってそんな無駄金を使う必要があんだよ。
68. わかった、俺が確認する。それだけの事が起こるなら俺にも見えるはずだろ、そしたら俺も納得するよ」
69. それから三人は、9時頃に俺のアパートに付くようにアパートにむかうことにした。
70. コウジ「やめよーぜ。やっぱやばいよ。」
71. あきのり「ならお前はここにいろ。」
72. まさき「開けるぞ」
73. あきのり「なんともねえじゃん！」
74. 笑っているアキノリを見て俺はたじろいだ。
75. まさき「あっ。。！！」
76. あきのりの背にしているガラス戸の向こうであの得体のしれない奴がまたここを見ている。
77. 俺はあきのりの背後を指し、アキノリもガラス戸を見た。
78. あきのり「っ・・・・・・・・！」

CONT'D OVER

79. きっと見えたであろうアキノリは俺のほうに後ずさりしている。
80. 昨日開いた窓はまだ開いていた。
81. まさき「ま、窓から逃げるぞ」
82. だが二人が動いた瞬間今度は逆に窓が閉まってしまった。
83. あきのり「や、やめろ。。。やめてっ、やめてくれ！」
84. あきのりはそう叫びながら何かを振り払おうとしている。
85. 俺には何も見えない。あきのりは全く別のものを見ている。
86. まさき「おいどうしたんだよ！だいじょうぶか、おい！！」
87. まさき「おい、コージ、そこの盛り塩をここに投げろ！！」
88. コージ「お、おう！」
89. コージは塩を取り投げた。そうすると得体の知れないやつは消えた。
90. 俺はあきのりを担ぎ上げて部屋を出た。
91. 外に出てみたがアキノリのおびえはやむことはなかった。
92. あきのり「やめろっ、離れろっ！やめてくれえーっ！」
93. まさき「とにかく病院に連れて行こう」
94. コージ「けど医者には何て言うんだよ！！」

CONT'D OVER

95. まさき「でも俺達にはなにもできない、だから連れていこう」
96. まさき「川崎病院まで！！」
97. 運転手「いやぁお客さん酔ってるんですか。困りますよ！」
98. コージ「おい、乗車拒否すんのかよ！！」
99. 運転手「わ、わかりました。。」
100. その夜、俺とコージは病院の待合室で朝が来るのを待っていた。
101. 医者「君たちがアキノリ君の友達？」
102. どうもおかしくって。。。彼の精神状態が何らかのショックでおかしくなったかもしれないんです。
103. これから別の病院に搬送して詳しく見てもらおうと思います」
104. まさき「え。。。??」
105. この事件の後俺は、あきのりの両親から訴えられ警察に尋問された。
106. あれから12年あきのりとは会話ができないまま。
107. あの時やめておけばあきのりをこんなめに合わせる事はなかったのに。

KANA

1. おれはしごとのつごうでへやをひっこすことになった。

CONT'D OVER

2. そのへやはかいしゃがよういしたもので、ひっこしなどもすべてぎょうしゃにまかせひっこしがかんりょうしてはじめてそのへやにはいった。
3. まさき「うわっ、なんだここ?! せんこうのにおいがくさいし、さむけがするし。。。
4. ここはかなりやばいかも。まあしょうがないか。」
5. まさき「えっとー、ねるへやはこっちで、しごとはあっちのへやにすればいいか。
6. ささ、はやくずめんをかかなきゃたんとうしゃのにんにいかられちまう。」
7. にもつのせいりをするまもなく、おれはおわれているずめんかきをはじめた。
8. それからろじかんがけいかした。
9. まさき「はらへったなあ。もう11じはんかあ。めしくって、ねなきゃな。」
10. そうおもいだいどころにむかおうとしたしゅんかんおれのからだはこおりついた。
11. ガラスどのむこうにだれかいる、くもりガラスのためにだれなのかはわからない、
12. まさき「あれって。。。ひとか??
13. ほうっておくか、あけるべきか。でもはらへってるし。。。しょうがない、ひらけよう。」
14. やめとけばよかった。めのまえにいたのは、しんちょう180cmほどのおとこ。
15. 8がつなのにくろいコートをきて、がんきゅうのとびだしたためでおれをみている・・・
16. あまりにめがこわいのでおれはしせんをしたにそらした。

CONT'D OVER

17. するとくびからはおびたしいち、
18. まさき「やばい」
19. おばけ「ここはおれのへやなんだけど、あんただれ。」
20. まさき「どうすりゃいいんだよ。たすけをよぼうにもまだでんわはひいてないし」
21. まさき「にげるしかない、でもガラスどをひらければおとこがたってるし・・・
22. だからといってこのへやではさすがにねれないし、やっぱでていくしかない」
23. おとこのよこをすりぬけげんかんのとびらをひらきながらおもわず
24. 「しつれいしました。」
25. われながらなさけなかった。。。
26. ひとりではとてもあのへやにもどることはできない。そうおもいおれはちゅうがくからのしんゆうのふたりにれんらくをとりそうだんにのってもらうことにした。
27. まさき「コウジ！こっちこっち！」
28. こうじ「おお、まさき、ひさしぶりだなあ。」
29. しばらくしてアキノリがきた。
30. アキノリ「なんだよ、こんなところによびだしといて。いったいなにがあったんだ？」
31. まさき「じつはさあ。。。」
32. おれはふたりにきのうおこったことをいちぶしじゅうはなした。

CONT'D OVER

33. アキノリ「はあ???アホかおまえ。そんなことあるはずねえだろ。みまちがいだよ。」
34. コウジ「まあでも、まさきがそこまでこわがるのをみるのははじめてだな。。
35. わかった。きょういっしょにいつてしらべてみるか。」
36. まさき「そうか!ありがとう!」
37. あきのり「きょうはおれ、かのじょとあわなきゃいけないから、あしたいつてやるよ。」
38. コウジ「おう、わかった。」
39. まさきとコウジはアキノリとわかれ、まさきのアパートにむかった。
40. まさき「さてついた。ここだよ。」
41. コウジ「な、なになんだよここ。こんなのはじめてだよ。」
42. まさき「いいか?あけるぞ。。。」
43. コウジ「うん、わかった。」
44. コウジ「せんこうのにおいがすげえな。。。」
45. コウジ「おまへのいうとおり、ふつうじゃないね。。ここ」
46. まさき「う、うん。。」
47. おふだをガラスこにはり、きよめのしおをだいどころのよすみにもることにした。
48. コウジ「はあ。。。きけばよいけどな。」

CONT'D OVER

49. そしてよる9じ
50. まさき「きたっ！！」
51. コウジ「あれ、とまったぞ？」
52. コウジ「なあやべえよ。しゃれになんねえよ」
53. まさき「うわっ！」
54. コウジ「あぶない！」
55. われたまどのむこうには、きのうおれがみたやつのがふたりをにらんでいた。
56. コウジ「にげるしかねえぞ。。。」
57. まさき「でもどこから?!」
58. まどからにげるぞ。へやはにかいにあるのでとびだしてもおおけがはしない。
59. ふたりはとびだしたあと、おおどおりでタクシーにのりコウジのアパートにむかった。
60. コウジ「あのへやどうすんだよ!？」
61. まさき「むりでしょ。あそこにはすめないよ。」
62. つぎのひ、コウジのアパートにアキノリがきた。
63. アキノリ「あれ、ふたりともここにいるってことはにげたの??なさけないねえ!!」
64. コウジ「うるせー!!みてねーやつにはわかんねーんだよ！」

CONT'D OVER

65. まさき「まあまあ。。。。とりあえずあそこのへやにはもどれない。。」
66. アキノリ「もどらないとしたらあたらしいへやをかりなきゃいけないんだろ、そしたらじばらでかりることになるんじゃないの？」
67. なんておこるはずのないげんしょうにビビってそんなむだがねをつかうひつようがあんだよ。
68. わかった、おれがかくにんする。それだけのことがおこるならおれにもみえるはずだろ、そしたらおれもなっとくするよ」
69. それからさんには、9じごろにおれのアパートにつくようにアパートにむかうことにした。
70. コウジ「やめよーぜ。やっぱやばいよ。」
71. あきのり「ならおまえはここにいろ。」
72. まさき「ひらけるぞ」
73. あきのり「なんともねえじゃん！」
74. わらっているアキノリをみておれはたじろいだ。
75. まさき「あっ。。！！」
76. あきのりのせにしているガラスこどのむこうであのえたいのしれないやつがまたここをみている。
77. おれはあきのりのはいごをさし、アキノリもガラスどをみた。
78. あきのり「っ…………！」

79. きっとみえたであろうアキノリはおれのほうにあとずさりしている。
80. きのうちあいたまどはまだあいていた。
81. まさき「ま、まどからにげるぞ」
82. だがふたりがうごいたしゅんかんこんどはぎゃくにまどがしまってしまった。
83. あきのり「や、やめろ。。。やめてっ、やめてくれ！」
84. あきのりはそうさけびながらなにかをふりはらおうとしている。
85. おれにはなにもみえない。あきのりはまったくべつのをみている。
86. まさき「おいどうしたんだよ！だいじょうぶか、おい！！」
87. まさき「おい、コージ、そこのもりじおをここになげろ！！」
88. コージ「お、おう！」
89. コージはしおをとりなげた。そうするとえたいのしれないやつはきえた。
90. おれはあきのりのかつぎあげてへやをでた。
91. そとにでてみたがアキノリのおびえはやむことはなかった。
92. あきのり「やめろっ、はなれろっ！やめてくれえーっ！」
93. まさき「とにかくびょういんにつれていこう」
94. コージ「けどいしゃにはなんていうんだよ！！」

CONT'D OVER

95. まさき「でもおれたちにはなにもできない、だからつれていこう」
96. まさき「かわさきびょういんまで！！」
97. うんてんしゅ「いやあおきゃくさんよってるんですか。こまりますよ！」
98. コージ「おい、じょうしゃきょひすんのかよ！！」
99. うんてんしゅ「わ、わかりました。。」
100. そのよる、おれとコージはびょういんのまちあいしつであさがくるのをまっていた。
101. いしゃ「きみたちがアキノリくんのともだち？」
102. どうもおかしくって。。。かれのせいしんじょうたいがなんらかのショックでおかしくなったかもしれないんです。
103. これからべつのびょういんにはんそうしてくわしくみてもらおうとおもいます」
104. まさき「え。。??」
105. このじけんのあとおれは、あきのりのりょうしんからうったえられけいさつにじんもんされた。
106. あれから12ねんあきのりとはかいわができないまま。
107. あのときやめておけばあきのりをこんなめにあわせることはなかったのに。

ROMANIZATION

1. Ore wa shigoto no tsugō de heya o hikkosu koto ni natta.

2. Sono heya wa kaisha ga yōishita mono de, hikkoshi nado mo subete gyōsha ni makase hikkoshi ga kanryō shite hajimete sono heya ni haitta.
3. MASAKI: Uwa, nan da koko?! Senkō no nioi ga kusai shi, samuke ga suru shi...
4. koko wa kanari yabai kamo. Mā shōganai ka.
5. MASAKI: Ettō, neru heya wa kocchi de, shigoto wa acchi no heya ni sureba ii ka.
6. Sasa, hayaku zumen o kakanakya tantōsha no hito ni ik arare chimau.
7. Nimotsu no seiri o suru ma monaku, ore wa owarete iru zumen kaki o hajimeta.
8. Sorekara 3-jikan ga keika shita.
9. MASAKI: Hara hetta nā. Mō 11-ji-han kā. Meshi kutte, nena kya na.
10. Sō omoi daidokoro ni mukaō to shita shunkan ore no karada wa kōritsuita.
11. Garasu do no mukō ni dareka iru, kumori garasu no tame ni dare na no ka wa wakaranai.
12. MASAKI: Arette... hito ka??
13. Hōtte okuka, akeru beki ka. Demo hara hette ru shi... Shōganai, ake yō.
14. Yame toke ba yokatta. Me no mae ni ita no wa, shinchō 180 cm hodo no otoko.
15. 8-gatsu na noni kuroi kōto o kite, gankyū no tobidashita me de ore o mite iru...
16. amari ni me ga kowai node ore wa shisen o shita ni sorashita.

CONT'D OVER

17. Suru to kubi kara wa obitadashii chi,
18. **MASAKI:** Yabai.
19. **OBAKE:** Koko wa ore no heya na n dakedo, anta dare.
20. **MASAKI:** Dō su rya ii n da yo. tasuke o yobō ni mo mada denwa wa hiite nai shi.
21. **MASAKI:** Nigeru shika nai, demo garasu do o hirakere ba otoko ga tatte ru shi...
22. dakara to itte kono heya de wa sasugani nerenai shi, yappa dete iku shika nai.
23. Otoko no yoko o surinuke genkan no tobira o hiraki nagara omowazu
24. (Shitsurei shimashita.)
25. ware nagara nasakenakatta...
26. Hitori de wa totemo ano heya ni modoru koto wa dekinai. Sō omoi ore wa chūgaku kara no shin'yū no futari ni renraku o tori sōdan ni notte morau koto ni shita.
27. **MASAKI:** Kōji kocchi kocchi!
28. **KŌJI:** Ō, Masaki, hisashiburi da nā.
29. Shibaraku shite Akinori ga kita.
30. **AKINORI:** Nan da yo, kon'na tokoro ni yobidashito ite. Ittai nani ga atta n da?
31. **MASAKI:** Jitsu wa sā...

CONT'D OVER

32. Ore wa futari ni kinō okotta koto o ichibushijū hanashita.
33. AKINORI: Hā??? Aho ka omae. Son'na koto aru hazu nee daro. Mi-machigai da yo.
34. KŌJI: Mā demo, Masaki ga soko made kowagaru no o miru no wa hajimete da na.. Wakatta. Kyō issyo ni itte shirabete miru ka.
35. MASAKI: Sō ka! Arigatō!
36. AKINORI: Kyō wa ore, kanojo to awana kya ikenai kara, ashita itte yaru yo.
37. KŌJI: Ō, wakatta.
38. Masakito Kōji wa Akinori to wakare, Masaki no apāto ni mukatta.
39. MASAKI: Sate tsuita. koko da yo.
40. KŌJI: Na, nani nan da yo koko. Kon'na no hajimete da yo.
41. MASAKI: Iika? Akeru zo...
42. KŌJI: Un, wakatta.
43. KŌJI: Senkō no nioi ga sugēe na...
44. KŌJI: Omae no iu tōri, futsū ja nai ne.. koko.
45. MASAKI: U, un...
46. O-fuda o garasu do ni hari, kiyome no shio o daidokoro no yosumi ni moru koto ni shita.

CONT'D OVER

47. KŌJI: Hā... kike ba yoi kedo na.
48. Soshite yoru ku-ji
49. MASAKI: Kita!!
50. KŌJI: Are, tomatta zo?
51. KŌJI: Nā yabee yo. Share ni nan'nee yo.
52. MASAKI: Uwa!
53. KŌJI: Abunai!
54. Wareta mado no mukō ni wa, kinō ore ga mita yatsu no me ga futari o nirande ita.
55. KŌJI: Nigeru shika nee zo...
56. MASAKI: Demo doko kara?!
57. Nigeru basho wa garasu do shika nai. Heya wa ni-kai ni aru node tobidashite mo ōkega wa shinai. Futari wa tobidashi ta ato, ōdōri de takushī ni nori Kōji no apāto ni mukatta.
58. KŌJI: Ano heya dō su n da yo!?
59. MASAKI: Muri desho. Asoko ni wa sumenai yo.
60. Tsugi no hi, kōji no apāto ni Akinori ga kita.
61. AKINORI: Are, futari tomo koko ni iru tte koto wa nigeta no?? Nasakenai nee!!
62. KŌJI: Urusē!! Mite nē yatsu ni wa wakannē n da yo!

CONT'D OVER

63. **MASAKI:** Māmā.... Toriaezu asoko no heya ni wa modorenai...
64. **AKINORI:** Modoranai to shita ra atarashii heya o karina kya ikenai n daro, so shitara jibara de kariru koto ni naru n ja nē no? Nande okoru hazu no nai genshō ni bibitte son'na mudagane o tsukau hitsuyō ga an da yo. Wakatta, ore ga kakunin suru. Sore dake no koto ga okoru nara ore ni mo mieru hazu daro, so shitara ore mo nattoku suru yo.
65. Sore kara san'nin wa,ku-ji goro ni ore no apāto ni tsuku yōni apāto ni mukau koto ni shita.
66. **KŌJI:** Yameyō ze. Yappa yabai yo.
67. **AKINORI:** Nara omae wa koko ni iro.
68. **MASAKI:** Akeru zo.
69. **AKINORI:** Nan tomo nee jan!
70. Waratte iru Akinori o mite ore wa tajiroida.
71. **MASAKI:** A..!!
72. Akinori no se ni shite iru garasu do no mukō de ano etai no shirenai yatsu ga mata koko o mite iru. Ore wa Akinori no haigo o sashi, Akinori mo garasu do o mita.
73. **AKINORI:** Tsu....!
74. Kitto mieta de arō Akinori wa ore no hō ni ato zusarishite iru.
75. Kinō aita mado wa mada aite ita.
76. **MASAKI:** Ma, mado kara nigeru zo.

CONT'D OVER

77. Daga futari ga ugoita shunkan kondo wa gyaku ni mado ga shimatte shimatta.
78. AKINORI: Ya, yamero... yamete, yamete kure!
79. Akinori wa sō sakebi nagara nani ka o furiharaō to shite iru. Ore ni wa nani mo mienai.
Akinori wa mattaku betsu no mono o mite iru.
80. MASAKI: Oi dō shita n da yo! Daijōbu ka, oi!!
81. MASAKI: Oi, Kōji, soko no morijio o koko ni nagero!!
82. KŌJI: O, ō!
83. Kōji wa shio o tori nageta. Sō suru to etai no shirenai yatsu wa kieta. Ore wa Akinori o katsugiagete heya o deta.
84. Soto ni dete mita ga Akinori no obie wa yamu koto wa nakatta.
85. AKINORI: Yamero, hanarero! Yamete kureē!
86. MASAKI: Tonikaku byōin ni tsurete ikō.
87. KŌJI: Kedo isha ni wa nante iu n da yo!!
88. MASAKI: Demo ore-tachi ni wa nani mo dekinai, dakara tsurete ikō.
89. MASAKI: Kawasaki byōin made!!
90. UNTENSHU: Iyā o-kyaku-san yotte ru n desu ka. Komari masu yo!
91. KŌJI: Oi, jāshakyohi su n no ka yo!!

CONT'D OVER

92. UNTENSHU: Wa, wakarimashita...
93. Sono yoru, ore to kōji wa byōin no machiaishitsu de asa ga kuru no o matte ita.
94. ISHA: Kimi-tachi ga Akinori-kun no tomodachi? Dō mo okashikutte... Kare no seishinjōtai ga nanraka no shokku de okashiku natta kamo shirenai n desu. Kore kara betsu no byōin ni hansō shite kuwashiku mite moraō to omoimasu.
95. MASAKI: E..??
96. Kono jiken no ato ore wa, Akinori no ryōshin kara uttae rare keisatsu ni jinmon s areta. Arekara 12-nen Akinorito wa kaiwa ga dekinai mama.
97. Ano toki yamete okeba Akinori o kon'na me ni awaseru koto wa nakatta noni.

ENGLISH

1. I had to move for my work. The company found the apartment for me and the moving company took care of everything. The first time I actually saw the place was after they had finished.
2. Masaki “Yikes, what is with this place – It smells of incense! and what a draft...”
3. What a dump. I guess I’ll just have to learn to like it.”
4. Masaki “Hmm... I guess this can be my bedroom and this should make a good work space.
5. I’d better take care of that floor plan or the boss is going to kill me.”
6. With no time to unpack, I drew floor plans as three hours came and went.

CONT'D OVER

7. Masaki “Man, I’m hungry. Wow, it’s already 11:30. I’d better eat something and get to bed.”
8. I turned and headed for the kitchen, but the moment I did my body froze.
9. Someone was standing on the other side of the glass door but the frosted pane only revealed their silhouette.
10. Masaki “Is that... a person? Should I just ignore them or open the door? I’m really hungry so I guess I have no choice...”
11. But I should have just left well enough alone. A man about 180cm tall stood before me. Although it was August, he wore a black coat and stared at me with eyes that hung out of his head. The eyes were too frightening to look at and I cast my gaze down. But as I did, a thick stream of blood fell from his neck.
12. Masaki “Oh no!”
13. Ghost “This is my room. Who are you?”
14. Masaki “What the hell am I supposed to do? The phone line isn’t in yet - I can’t even call for help!”
15. Masaki “I have to get out of here, but that man is standing on the other side of the glass door... I’ll never be able to get to sleep in here though - I guess I’ll just have to make a run for it.”
16. I slipped past the man and opened the front door.
17. Without thinking on the way out I automatically said, “Sitsurei shimasita.”
18. It was pretty pathetic even for me...

CONT'D OVER

19. I'd never be able to go back to that apartment alone now. I called two closest friends from middle school to ask for their help.
20. Masaki "Koji, over here!"
21. Koji "Oh, Masaki! It's been so long!"
22. In a short while Akinori arrived too.
23. Akinori "What's the big idea dragging me all the way out here... What the heck happened to you?"
24. Masaki "Well..."
25. I told the two of them what had happened the night before from beginning to end.
26. Akinori "Are you out of your mind? That can't be right – you were just seeing things."
27. Koji "But this is the first time I've ever seen you this shaken up Masaki. Alright, I'll go there with you tonight and we can check things out together."
28. Masaki "Really?! Oh, thank you!"
29. Akinori "Well, I've got to meet my girlfriend tonight, but I'll go with you tomorrow."
30. Koji "Oh, Okay."
31. Akinori left and Masaki and Koji headed for the apartment.
32. Masaki "Alright, this is the place."
33. Koji "What's with this apartment? I've never seen any place like this."

CONT'D OVER

34. Masaki “I’m going to open it...”
35. Koji “Ok...”
36. Koji “Wow, the smell of incense is really strong!”
37. Koji “You weren’t kidding – something’s not right with this room...”
38. Masaki “Yeah...”
39. They decided to put a paper talisman on the glass door and purifying salt in the four corners of the room.
40. Koji “Well, I hope this works...”
41. The clock struck 9.
42. Masaki “He’s here!!”
43. Koji “It stopped...”
44. Koji “Not good! This is so not cool!”
45. Masaki “Ahh!!”
46. Koji “Watch out!”
47. The thing I saw the night before was glaring at us from the other side of the broken glass.
48. Koji “We’ve got to get out of here...”
49. Masaki “But how?!”

CONT'D OVER

50. The only way out was through the glass door. The room was on the second floor, so making an escape from the balcony possible. They jumped to the street below and caught a taxi back to Koji's apartment.
51. Koji "What are you going to do about that apartment?"
52. Masaki "Well there's no way I can live there now."
53. The next day Akinori came to Koji's apartment.
54. Akinori "Well since both of you are here, I guess that means you ran huh? What a pair of cowards!"
55. Koji "Shut up! You don't know – you haven't seen it!"
56. Masaki "Come on guys... Well anyway, I can't go back there..."
57. Akinori "But if you don't go back then you'll have to rent a different apartment on your own right? Why should you have to go wasting a bunch of money over something that doesn't even exist? I'll go and have a look for myself. If this thing is for real I should be able to see it too – then I'll believe you."
58. The trio headed toward the apartment in time to arrive by 9 o'clock.
59. Koji "Can we go back? I don't like this..."
60. Akinori "You're welcome to stay outside if you want."
61. Masaki "Here we go..."
62. Akinori "See! There's nothing in here!"
63. I winced at Akinori's words.

CONT'D OVER

64. Masaki “Ah..!!”
65. On the other side of the glass door at Akinori’s back the thing was staring again in our direction. I pointed and Akinori looked through the glass door.
66. Akinori “Oh...”
67. Akinori must have seen it too. He backed away into me.
68. The window was still open from the previous night.
69. Masaki “L...Let’s get out through the window.”
70. But the moment the two moved toward the window it slammed shut.
71. Akinori “S...Stop it! Please, leave me alone!”
72. Akinori yells and flails as if trying to shake something off. Akinori seemed to be seeing something that I couldn’t.
73. Masaki “Hey, what’s the matter?! Hey!!”
74. Masaki “Hey Koji, throw some of that purifying salt at him!!”
75. Koji “Okay!”
76. Koji threw the salt and the thing vanished. I picked up Akinori and left the room.
77. We were safely outside, but Akinori was still hysterical.
78. Akinori “Stop it! Get away from me!! Stop it please!”

CONT'D OVER

79. Masaki “Let’s take him to a hospital.”
80. Koji “And tell the doctor what?!”
81. Masaki “Well, I don’t know but I certainly can’t do anything for him. Let’s just get him to a hospital.”
82. Masaki “Take us to the Kawasaki hospital.”
83. Driver “Is he drunk? I don’t drive drunkards.”
84. Koji “Hey – are you trying to deny us service?!”
85. Driver “Okay, okay – get in...”
86. That night Koji and I sat in the waiting room waiting for the dawn to come.
87. Doctor “Are you two Akinori’s friends? Something is really wrong with him... I believe he may have experienced some kind of severe mental trauma that has sent him into a state of shock. I’m having him sent to another hospital for further examination.”
88. Masaki “What...??”
89. After everything was over I was sued by Akinori’s parents and interrogated by the police, and Akinori was left unable to speak even 12 years after the ordeal. If we had only left well enough alone none of this would ever have happened to him.

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
完了	かんりょう	kanryō	completion, conclusion
大怪我	おおけが	ōkega	serious injury

自腹	じばら	jibara	paying onee's own money
得体の知れない	えたいのしれない	etainorenai	strange, unfamiliar, mysterious, suspicious
現象	げんしょう	genshō	phenomenon
ビビる	びびる	bibiru	to be scared
無駄金	むだがね	mudagane	barren money
納得する	なっとくする	nattoku suru	to satisfy oneself, to accept a situation
たじろぐ	たじろぐ	tajirogu	to shrink, to wince, to falter
得体の知れない	えたいのしれない	etai no shirenai	strange, unfamiliar, mysterious, suspicious
担ぎ上げる	かつぎあげる	katsugiageru	to lift somethign onto one's shoulder
乗車拒否	じょうしゃきよひ	jōshakyohi	refusing to allow a passenger on board a train or into a bus or taxi
待合室	まちあいしつ	machiaishitsu	waiting room
精神状態	せいしんじょうたい	seishinjōtai	mental condition, state of mind
搬送する	はんそうする	hansōsuru	to transport
睨む	にらむ	niramu	to glare at, to scowl at, to keep an eye on
お札	おふだ	o-fuda	talisman
業者	ぎょうしゃ	gyōsha	trader, merchant
引っ越す	ひっこす	hikkosu	to move (house)
都合	つごう	tsugō	convenience, condition
線香	せんこう	senkō	incense stick

臭い	におい	nioi	smell
臭い	くさい	kusai	stinking
寒気	さむけ	samuke	chill, shiver, cold
図面	ずめん	zumen	drawing, blueprint
担当者	たんとうしゃ	tantōsha	person in charge
凍り付く		kōritsuku	to freeze
眼球	がんきゅう	gankyū	eyeball
すり抜ける	すりぬける	surinukeru	to slip through, to make one's way through quickly
連絡を取る	れんらくをとる	renraku o toru	to get in touch with
一部始終	いちぶしじゅう	ichibushijū	the whole story, from beginning to end
尋問する	じんもんする	jinmonsuru	to interrogate

SAMPLE SENTENCES

<p>彼が辞めた理由を聞いて、納得した。 <i>Kare ga yameta riyū o kiite nattoku shita.</i></p> <p>I heard the reason why he quit, and I fully understand why he did.</p>	<p>彼の行動に怒ったので、彼を睨みつけた。 <i>Kare no kōdō ni okotta node kare o niramitsuketa.</i></p> <p>I got annoyed by his behaviour, so I glared at him.</p>
<p>いい臭いがする。 <i>It smells good.</i></p>	<p>夜中に、急に寒気を感じた。 <i>Yonaka ni kyū ni samuke o kanjita.</i></p> <p>I felt chills suddenly at midnight.</p>

CULTURAL INSIGHT

Ā ā Ē ē Ī ī Ō ō Ū ū